

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 海洋	<input type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> その他（食育）	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「自らつなぎつながら力の育成」を重点目標に掲げ、「一人一人が環境と深いつながりがあることを知り、身近な環境から大切にしよう」と自分のできることに取り組む子どもを育てる」という目標を設定している。そのためには地域にある自然や地域の方とも積極的に関わり、校区の特色を生かしながら「ひと、こと、ものとのかかわり」を大切にして豊かな心を育むとともに、体験を通して自ら考えを深め、心身ともに健康な子どもの育成に努めている。



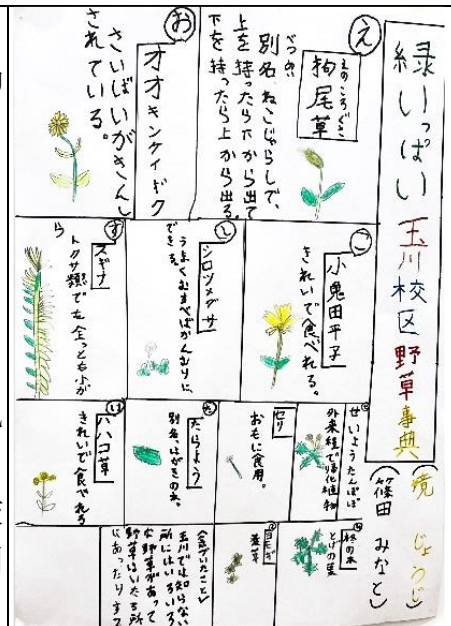
3 特徴的な活動事例の紹介

○ 3年生 自然の宝庫「玉川野草事典づくり」

玉川小のまわりにはどんな草があるのか、野草の名前とその特徴を図鑑やインターネットで調べるところから活動を始めた。

例えば、ヨモギだけでなく、ノビル、ユキノシタ、フキ、スギナなどである。子どもたちは今まで単なる雑草と思っていたものが、調べてみると、食べることができるものや、薬にもなるものもあることに驚いていた。子どもたちがこれまでは雑草とひとくくりに見ていたものが、ひとつひとつの野草としてとられるようになったことは、自然への見方が変わってきたからだ考える。

また、調べたことを「玉川野草事典」としてまとめ、校内に掲示した。そして、地域の方の指導のもと、「よもぎ団子」を作り、食べる活動を行った。



子どもたちは、これらの活動ができるのは、玉川が自然の宝庫だからだと考え、自分たちが住んでいる地域の素晴らしさを感じ取ることができた。



○ 6年生 地産地消に挑戦「玉むすびづくり」

玉川地域は高齢者の割合が高く、地域に根付いて農業に従事していく人が次第に減っているという現実を知り、もっと玉川を活気付け、よさやすばらしさを残し、町おこしにつなげようというところから活動をはじめた。

そこで、地域の方たちに協力を仰ぎ、地域で収穫される米、たけのこ、くり、よもぎ、高菜、じゃがいも、梅、里芋、などを材料にして、おにぎりを作った。そして、みんなを結び付ける願いを込めて

「玉むすび」と名付け、地域の方にも試食していただき、感想をもとに改良を重ねていった。

子どもたちは玉川のよさが伝わるよう「玉川らしさ」にこだわり、地域の人、自然、おいしい農作物などが結び付いた「玉むすび」から、町おこしへの挑戦が続いている。



3 今後の活動計画

以下のことを重点内容として活動に取り組む。

1年生：はなややさいとなかよし

2年生：花や野菜の大きくなるひみつはっけん

3年生：玉川探検隊（春・夏・秋・冬）

※ 校区で栽培されている農作物を調べ、地域の方の素晴らしさに気付かせる。

4年生：鳴川・諏訪川探検隊（地域の鳴川・諏訪川）

5年生：米作りに挑戦：お年寄りにもち米を配ろう

※ 米作りでできたもち米をお年寄りに配付することで、福祉への興味関心を高め、主体的に活動できるようにする。

6年生：玉川100選・櫟野石の秘密を探ろう